

予習



渡辺 斉

東北大学大学院工学研究科博士前期課程建築学専攻修了。新潟県庁入庁後、建築住宅課、都市計画課、地域政策課等で住まい・まちづくりや地域づくりの企画、市町村指導を担当。2005年、長岡市へ復興管理官として出向し、中越地震からの復興と地域復興総括を担当された。2013年退任。現在、一般社団法人新潟県建築士会常務理事、まちづくりアドバイザー等のほか、その幅広いネットワークを活かした活動を展開されている。大地の芸術祭の仕掛け人。



阿部 ふくじ

新潟市生まれ。新潟大学卒業後、東北大学大学院博士後期課程修了。日本芸術振興会特別研究員、東京大学特任研究員を経て2016年より新潟大学人文学部准教授。専門は近代ドイツ哲学、哲学教育。哲学プラクティスの活動に関心があり、地域のさまざまな人々や小学校と連携して哲学対話を推進している。



田中 辰幸

1978年生まれ。2012年11月より新潟県燕市にて美容室併設の自家焙煎のコーヒーショップ「ツバメコーヒー」をはじめ。2014年7月より喫茶室と生食雑貨店を新たに作り、今に至る。すべてのコーヒー豆は店内の焙煎機で自家焙煎され、すっきりと飲みやすい味わい。喫茶室は聖面全体が本棚になっており、地元の人のみならず遠方から訪れる方も少なくない。ちなみに「ツバメコーヒー」の名前の由来は燕市にあり、夢は「燕市がすきな理由になること」



深海 寛子

つばめの学校の校長。みんなちがってみんなはっぴーという言葉を大切に、みんなとは違う私が幸せに生きて行くにはどうしたらいいか？を考えている。2人の娘の母であり、隣に誰かいる子も共に遊び育ち合える地域を目指す親子サークル「はっぴーザウルス」の代表も務める。



高橋 トオル

デザイン事務所「ツムジグラフィカ」代表。アートディレクター。NADC/審査員特別賞、大地の芸術祭2015参加、グッドデザイン賞2015受賞。「人とデザイン」をテーマに新潟を拠点に活動している。

6/17の座談会・テーマは「わたしたちにとっての学び」 話し手それぞれの「学び」

ともに豊かな人生を送るために

学ぶとは？六十半ばになるまで面と向き合って考えたことも無く、学校での学びの記憶も薄く、つばめの学校の皆さんからいただいた宿題にはたと悩んでしまった。元来好奇心旺盛な方で昔からあちこち旅をしたり、文学や芸術に触れることは好きだったが最大の学びとチャンスはいろいろな人との出会いだっただような気がする。かつて稲森和夫さんは松下幸之助との出会いで「強く想うことが大切」という言葉に体が震えるような触発を受けて会社を退職し京セラを起業、成功へ導くことができたという。また、松陰と出会った綺羅星のような維新の志士たちに想いを馳せると目頭が熱くなってくる。学び、そして実践へ、まだまだ未熟ですが若い皆さんと大いに学びについて語り合い、深め合っていきたい。ともに豊かな人生を送るために。

問いたいのは、学びの実践における〈主体性〉

「学ぶ」とは、自分で何かを考え行動するその手前にある基本的な実践である。私が問いたいのは、学びの実践における〈主体性〉とは何かだ。今の教育においては受け身ではなく能動的（アクティブ）に学ぶことが強く求められているが、これはそもそも主体的でない学びに対する批判と改善策である。私は特に、学ぶ主体の受動性もつ広がりについては、否定する前にもっときめ細かく考えてみる必要があるのではないかと思う。私たちは、誰か／何かから学び、考えさせられる。そして自ら何かを考え、表現し、それが誰かによって受けとめられる。主体のあいだのこうした受動的な影響作用にも目を向けてみることで、共生社会における学びの可能性を考えてみたい。

目的としての学びに終わりはない。

学びは手段ではなく、目的である。手段としての学びは目的達成した時点で終わりである。目的としての学びに終わりはない。なぜなら楽しいから学ぶのだから。かく言うべくもかつては上記の意味において学んでなどいなかった。正直に言えばぼくが学ばねば！と思ったのは、自分があまりにもバカだなということに気づいたからにすぎない。楽しくなってきたのはそれからだいぶあとになってからのことだ。成果がでるまでの時間差があればあるほど現代においては「コスパがわるい」と言われることだろう。とはいえ、そこで学びのコスパのよさを説明する気はもはや失せた。できることは、コスパはわるいけどたのしいから学ぼうよ！とひたすらに問いかけつつづけることだけだ。

私の資質をわずかでも高めようとする

「学び」というのは、生き方の態度。生活の中でどこからともなく差し出されるものは、享受する者に委ねられていると思う。状況を成りゆきとして受け入れるしぶとさや、転換できるクリエイティブさを蓄える。学ぶとは、そのように私の資質をわずかでも高めようとするのだと今は思う。

裏庭の暗がりの森

見えないものはつくれないとしたら、できない事は暗く、そこを動機に怖さに灯りをともす。見えてから見えてなかった事がわかる。振り返れば、怖さは合図であり、できない事は知らない事の幼生だった。それらひとかたまりへの認識は、知った跡であるけれど、その視力は同時にここも知っていないという疑いとなり、手元の灯りの外が見えない恐れは誕生である。見えるが見えないの尻尾を噛みでるシステムが『学び』だと思い、僕の『学び』とは暗がりの森である。裏庭にある森が怖くて、いつも泣いていた。泣きながらその森で姿をかえてきた。今も怖いけど、森の中ではもう泣かなくなった。

vol.11

vol.11

TSUBAME
つばめの学校
NO GAKKOU

6.17

Saturday, June 17, 2017

15:00 - 17:30

つばめの学校 始業式

- 場所 ツバメコーヒー
- 内容 座談「わたしたちにとっての学び」
哲学対話ワーク
意見交換
- 対象 どなたでも
- 参加費 1,500円（1ドリンク）※学生無料

Opening
ceremony
of 2017

学びつつづける大人へ

<http://tsubame-wakamono.com/projects/school/>

「つばめの学校」2017の始業式を行います。

あらためて、つばめの学校のこと

「みんな（周囲）」から「自分（個）」にもう一度立ち返る

わたしたちは、つばめの学校という学びの場を積み重ねていって、長くつづいていく場でありたいと考える。そのためには（あえて）だれかに来てもらうためにやるのではなく、自分が心からやりたいからやる、ということからはじめなければいけない。まず自分のことを考える、などと言うと、わがままとか利己的とか自分勝手だと思われるかもしれない。とはいうものの、自分たちが楽しんでいないのに、みんな（だけ）は楽しんでくれるに違いない、と考えることのほうが誠実なことに思えない。だからわたしたちはまず自分たちが楽しいと思える学びの場を率先して自分たちでつくることから始めたいと思っている。つまり、「みんな（周囲）」から「自分（個）」にもう一度立ち返る、というかたちでまとめておく。

たくさんの魅力的な「個」が町をおおいつくせばいい。

さらに「まちづくり」から「個」へ、ということでもあることを付け加えておきたい。まちづくりの事例を集めたところで、あの町とこの町は違うのだから、そのまま参考になどできやしない。未来のまちをどうするか？ということもみんなが同意することをみんなで考えようとして、みんなの意見がすこしずつついった（でも自分の意見とは言いがたい）「みんなの意見（らしきもの）」ができれば、わたしたちはあらためて「個」に立ち返ったほうがいい。町をどうするか？ではなく、たくさんの魅力的な「個」が町をおおいつくせばいい。ボトムアップで考えるまちづくりこそが、「つばめの学校」のような個人が集う学びの場によって生まれてくるのだから。

自分たちの欲望を超えるような欲望にふれる機会は
自分たちが信頼する人からしか得ることはできない。

そんな自分たちがやりたいことに加えて、自分たちが信頼する渡辺さんが提案してくれるものを合わせて、学校の授業をつくっていく。自分たちの欲望を超えるような欲望にふれる機会は、自分たちが信頼する人からしか得ることはできない。「個」の欲望の限界を知るからこそ、地域で活躍してきた先達の力を借りたいと思う。さらに阿部ふく子さんの協力により「哲学対話」という方法を用いて（冒頭の話とは反対に）「個」から「みんな」へと学びを深めていきたい。みなさんの意見を集めつつ、ひろいあげていったものをテーブルに置くことで個人では見えなかったものが見えてくることを期待したい。

（つばめの学校 田中 / ツバメコーヒー店主）

まとめると、

- 自分たちが心からやりたいと思うことだけをやっていく
- まちづくりという大きな話ではなく、自分たちを取り巻く足元にある話をしていく
- 地域の先輩の力を借りて、自分たちのやりたいを越えたことも取り込みながら深めていく

つばめの学校とは

つばめの学校

（つばめ若者会議中のプロジェクト）
※つばめ若者会議は燕市による事業。
燕市で主体的な活動を行う若者を支援しています。

目的：自分が学びたい事を自ら学べる場をつくり、その学びを深める続ける循環をつくる。その継続が人との出会いと交流となり、コミュニティーの醸成に繋がる事を目指す。

主催：つばめ若者会議のメンバー
参加者：どなたでも
形式：年に数度の講義や座談を行う。途中参加も可能。

「つばめの学校」は、メンバー自らが学ぶと共に多くの市民のみならずへも「学びの場」を提供し、多くの市民のみならずと一緒に「学び」を体験し、講師・メンバー・参加者のみならずで交流を深めます。「つばめの学校」の考える学びは、人に出会い、自分の中で考えを深め、発信します。学びの循環を繰り返しながら、新しい人・世界と出会いコミュニティが生まれる。わたしたちの考えるまちづくりとは、こうした人と人のつながりなのかもしれません。自分と他者の関係によって、自分の中に新しい観点が生まれる。難儀なことが起きたときに、人が乗り越えて行くために必要なことです。

6.17 つばめの学校 始業式 2017

Saturday, June 17, 2017
15:00 - 17:30

- 日時 6月17日(土) 午後3時00分～5時30分 (開場午後2時30分)
- 場所 ツバメコーヒー
- 内容 座談「わたしたちにとっての学び」
哲学対話ワーク
意見交換
- 対象 どなたでも
- 定員 20名程度
- 参加費 1,500円(1ドリンク)※学生無料
- 申込 下記の事務局宛、もしくは公式ウェブサイトより
<http://tsubame-wakamono.com/>
- 問合せ つばめ若者会議事務局 (地域振興課地域振興係) 電話 0256・77・8361 (直通) メール wakamono@city.tsubame.lg.jp



始業式のねらい

今年度の学校の方向性の発表したい。哲学対話を体験してもらいたい。つばめの学校の活動の目的の周知したい。共感者を増やしたい。よろしくお願いたします。

TIME TABLE

- 15:00— 座談 (60分)
ゲストスピーカー 渡辺さん・阿部ふく子さん
つばめの学校 田中 (ツバメコーヒー)
深海 (つばめの学校・校長)
コーディネーター 高橋 (ツムジグラフィカ)
- 16:00— 哲学対話 準備・説明 (20分)
- 16:20— 哲学対話ワーク (50分)
阿部ふく子さん
- 17:10— 意見交換 (20分)
- 17:30— 終了
- 18:30— 懇親会 (別会場へ移動)

懇親会では共有したことを深めます。

同じ場を共有したことを前提に、それについてやりとりし、深める場として、懇親会をご用意しています。

【申込時に参加をお伝えください / 定員 12名ほど】

会場「マッタンツァ」(燕市吉田下中野 420-3)
料金 4500円 (飲み放題 / 但しノンアルの方は 3500円)



燕市にあるツバメコーヒーで
おいしいコーヒーを飲みながら
学びについての学びを深めます。

<http://tsubame-wakamono.com/projects/school/>